

序

本書は既刊の『正常画像と並べてわかる腹部・骨盤部CT』(羊土社) のMRI版として作成された。早いもので同書(CT版)の発刊から約2年が経過し、この間にいろいろな方から様々なご意見を頂き、それらを元にさらにパワーアップした内容を本書では目指した。具体的には右ページ病変画像の下段に記載されている“疾患のポイントや診断のコツ”を倍近い内容に充実させ、疾患に関して調べる本としても十分な役割を果たせるよう配慮した。本のサイズはそのままで記載する量を増やしたため、その分文字が小さくなってしまったが、その点は何卒ご容赦いただきたい。それ以外にも目次の項に新たに臓器別目次を設けたり、巻末の索引用語数を飛躍的に増大させるなどの改良を加えている。また「正常画像と並べてわかる腹部・骨盤部CT」と同じ“腹部・骨盤部領域”ではあるが、MRIが得意とする疾患を中心に組み立ててあるためCTシリーズでは取り扱わなかつた多くの疾患を新たに掲載しており、本書とCT版の両方が揃ってはじめて腹部・骨盤部領域の疾患が完全網羅できるようになっている。また右ページ下段の“疾患のポイントや診断のコツ”は専門家の方にも役立つような一歩踏み込んだ内容も今回は執筆してあるため、そのような内容、すなわち臨床的には重要でMRIを専門とする、あるいはその領域(婦人科、消化器等...)を専門とする臨床医の方は理解すべき内容であるが、初学者の方にとってはやや難解で読み飛ばしても良いと思われるような記述内容については(やや難易度高)のマーク表示を行った。

なお個人情報保護の重要性が強調されている昨今の事情に配慮し、症例の年齢、性別、臨床経過/病歴などの情報はどうしても必要である場合を除き記載していない。

本書は1冊で正常解剖アトラス（左ページ）、疾患アトラス（右ページ）、正常と異常の対比アトラス（左ページと右ページの比較）という3役をこなしている。左ページ正常画像を眺めながら右ページ病変画像の所見のポイントをつかみ、そして右ページ下段の“疾患のポイントや診断のコツ”にてその疾患のminimum essential を学び取っていただければ幸いである。基本的には研修医や若手の先生方が読まれることを念頭に置いて執筆させていただいたが、コメディカルの方、あるいは臨床家として既に研鑽を積まれた先生方にもご自分の知識の復習とリフレッシュの材料としてご使用いただければ幸いである。

最後に共に編集・執筆作業を行ってくれた当院放射線科の横手宏之先生、山下晶祥先生、瀬浦宏崇先生（現 大阪市立大学放射線医学教室）、これらの作業を暖かく見守ってくださった古川 隆部長、ならびに今回の発刊にご尽力いただいた編集部の嶋田達哉氏、吉川竜文氏はじめ羊土社の方々に厚く御礼申し上げます。

2007年4月

日本赤十字社医療センター 放射線科 扇 和之